

豊島園界限

新田 由紀子

住めば都とはよくいわれる。

私鉄駅傍らの、古い小さなマンションで仮住まいを始めて一年になる。新築時から三十年も住んだ家は娘家族に明け渡してきた。代わりに、二年間の仮住まいを賄ってもらっている。

リフォームをして、隠居部屋を設けてくれた暁には舞い戻っていざ同居とあいなる段取りだ。ところが、この仮住まい、慣れてくると快適・便利このうえもない。おいそれと離れがたくなってきた。生活にワクワクすることもない年なのに、うれしい誤算である。

「リフォーム済んでも、もうしばらくこっちにいたい」と言うと、「えっママ、予、予算が…」と、娘夫婦は慌てている。

移った当初は、コンクリートの箱の中の暮らしが窮屈だった。木造戸建ての、いつてみれば厄介で無駄な空間と動線が恋しかった。季節ごとに刈りこむ庭木、門や玄関ドアの軋み、朝晩に開けては閉める重い雨戸、身についた長年の繰り返し。そんなものどこ吹く風とそぎ落としたこのマンション生活。浮いた時間と気持ちはシフトチェンジした。

窓から見える私鉄駅、反対側には地下鉄駅とバス停、どれも都心へ一本だ。ランチに映画に美術館や庭園散歩。一人で出かける繁華街が日常の延長にある。とはいえ、たいていのことはこの駅前でも間に合う。カフェやイタリアンに中華と牛丼屋。コンビニ、スーパーもすぐそこで、郵便局と映画館まである。

駅名の遊園地は長い歴史の幕を下ろしたばかりだが、跡地利用施設の工事が進む。一部開園した緑濃い城址公園は、ジョギングやウォーキングに朝から人が繰り出している。世界で二つ目という、映画のテーマパークのオープンも近い。モニュメントや装飾で街並みが賑やかになった。これに併せて駅舎のリニューアルが済み、ラッピング電車も走り始めた。

全国から詰めかけるファンを見るのが、いまから楽しみだ。地元に住んで七十年、馴染んだ土地の変遷を目の当たりにして、人もまた移り代わっていく。